

日本共産党 9月市議会 浸水被害の対策を強く要望!

8月14日早朝に交野市を襲った集中豪雨は、過去最高の時間雨量100ミリに達しました。市内では、床上浸水51件、床下浸水が161件、河川護岸崩壊6か所、道路陥没6か所、ハイキングコースの陥没5か所などの大きな被害となりました。

日本共産党は、被害現場を調査し、9月議会一般質問で、「安心して暮らせるために、浸水対策に大きな力を注ぐこと」を求めました。

各地で被害発生

【問】床上浸水は郡津、私部地域で多発。郡津1丁目は、平成20年にも浸水被害が起きている。原因と対策は。

【答】浸水対策5か年計画を実施してきた。地形的な原因もあり、今回の豪雨を対象とすれば、対策の考え方を検討しなおす必要がある。

■床上浸水の状況

私部	20件
郡津	16件
星田	9件
幾野	1件
向井田	1件
森北	1件
私市山手	1件
星田西	1件
星田北	1件
計	51件

【問】「第2京阪道路と私部西線の交差点」「京阪電車と府道交野久御山線の交差点」の冠水の原因と対策は。

【答】100ミリ雨量のため、冠水となった。全体としての対策を検討したい。



道路冠水(第2京阪と私部西線の交差点)

【問】前川は京阪電車の鉄橋の橋台でせまくなり、上流部であふれだした。対策は。

【答】京阪電車と協議が必要と考えている。

【問】交野小学校の冠水の原因と対策は。

【答】雨水が集中した水源範囲の詳細もまだ不明であり、検討したい。

【問】集中豪雨で、妙見川の十方橋や護岸が崩落したが、復旧について市の考えは。

【答】橋、護岸、道路すべて民有であり、橋の復旧は予定していない。しかし、ライフライン確保等のため、道路・護岸は市が復旧を行う。

【問】南星台では、ホタルを育てているビオトープに大量の土砂が流れ込む被害となった。復旧のための市の支援は。

【答】市として、地域の取り組みを支援するため、復旧に必要な土のうや砂利、板などの資材を提供している。



土砂に埋まったビオトープ(南星台)

被害把握について

【問】家屋被害の把握はどのようになっているか。

【答】家屋被害数は、ゴミ回収や消毒依頼、区長の情報などをもとに集計した。今後、効率的に全体の被害状況を把握する仕組みを設ける。

【問】店舗や事業所の被害は把握しているのか。また、被災ゴミは一般家屋と同じように市で回収してほしい。

【答】国の支援対象が家屋住宅に限られているため、店舗や事業所は、市として取りまとめをしていない。今後被害

状況の把握について検討したい。また、被災ゴミの回収も検討したい。

地元建設業者の育成を

【問】8月14日は盆で民間建設業者は休みであったが、河川の崩壊などの回復工事にどう対応したのか。

【答】被害発生直後から市内業者に連絡をとり、すぐ4社に対応していただいた。翌日以降、順次増えた。

【要望】災害時にすぐに対応できるのは地元業者である。地元業者の育成を求める。



がらと川の崩壊復旧工事(倉治7丁目)

遊水池機能の拡大を

【問】市は何ミリの雨量に対応できるよう河川整備に取組んでいるのか。

【答】10年に1回の降雨量・時間52ミリを目標に整備に取り組んでいる。

【問】大阪府が土砂災害警戒区域の指定をすすめているが、交野市内の指定状況は。

【答】市内で土砂災害警戒区域が55箇所(平成22年度29箇所、23年度17箇所追加)、同特別警戒区域が25箇所(平成23年度15箇所追加)指定されている。

土砂災害の対策について

【問】指定された地域の住民への周知の方法は。

【答】大阪府ホームページで周知し、府土木事務所、市土木建設課でも確認可能である。

【要望】指定された地域の住民には個別に通知すべきと考える。最低限、市のホームページ・広報で周知を徹底してほしい。

また、大阪府による危険箇所の対策工事は、まだ一部しか実施されていない。市として、府に対策工事の推進を強く求めてほしい。

財源と人材の確保を

【要望】現在、浸水対策5か年計画が取り組まれているが、今回の集中豪雨を含めた対策に大きく転換する必要がある。

交野市の平成23年度決算は赤字で基金も増額となった。安心して交野をつくるために、思い切った財源の投入を求める。同時に、災害対策をすすめるため、市職員の人材の充実を求める。

市政への
ご意見・ご要望を
お寄せ下さい。

